

令和3年度 県政アンケート調査結果の概要について

令和4年1月

みらい企画創造部

【調査目的】 県民の生活と県政に対する県民のニーズ、意識などを把握し、今後の施策の企画立案及び執行上の基礎資料とする。

【調査項目】	(1)「文化・芸術」について	(問1～10)
	(2)「カーボンニュートラル」について	(問11～14)
	(3)「デジタル技術の活用」について	(問15～18)
	(4)「地域連携ICカード」について	(問19～22)
	(5)「動物の愛護及び管理」について	(問23～27)
	(6)「スポーツ」について	(問28～36)

【調査対象】 県内在住の満18歳以上の男女個人

【標本数】 2,500

【調査方法】 郵送によるアンケート調査

【調査期間】 令和3年8月下旬～9月上旬

【回収結果】 回収数1,549件(回収率62.0%)

【調査結果】 (主な調査項目)

※1つの設問において2つ以上の回答を求めたものは、百分比の合計が100%を超える。

○「文化・芸術」について

新型コロナウイルスの影響で公演の多くが延期又は中止となる中、やまぎん県民ホールを訪れた目的は「0035(県産品ショップ)を利用した」が最も高く、次いで「公演を観た」。一方で「訪れたことはない」は76.7%、「やまぎん県民ホールを知らない」は11.0%

また、やまぎん県民ホールの大ホールで開催してほしい催物は「ミュージカル」が最も高く28.8%

▶ やまぎん県民ホールを訪れた目的について、回答割合が高い項目

第1位「0035(県産品ショップ)を利用した」(8.4%)

第2位「公演を観た」(7.4%)

第3位「館内を見学した」(6.5%)

▶ やまぎん県民ホールを「訪れたことはない」は76.7%、「やまぎん県民ホールを知らない」は11.0%

▶ やまぎん県民ホールの大ホールで開催してほしい催し物について、回答割合が高い項目

第1位「ミュージカル」(28.8%)

第2位「ロック・ポップス」(26.2%)

第3位「演劇」(23.9%)

県立博物館で重要だと思う役割は、「いつも新しい学びや発見が得られる『知的な好奇心を育む場としての役割』」が最も高く44.1%

▶ 県立博物館で重要だと思う役割について、回答割合が高い項目

- 第1位「いつも新しい学びや発見が得られる『知的な好奇心を育む場としての役割』」(44.1%)
- 第2位「学校教育との連携や多様な生涯学習の機会を提供する『学習の場としての役割』」(41.5%)
- 第3位「本県の歴史・文化や自然を幅広く調査・研究する『調査研究機関としての役割』」(40.2%)

「やまがた出羽百観音」を観光資源として活用するために重要だと思う取組みは、「インターネット(ウェブサイト、SNS)を活用した情報発信」が最も高く31.5%

▶ 「やまがた出羽百観音(最上・庄内・置賜の各三十三観音の総称)」を観光資源として活用するために重要だと思う取組みについて、回答割合が高い項目

- 第1位「インターネット(ウェブサイト、SNS)を活用した情報発信」(31.5%)
- 第2位「周辺の観光資源(立寄施設やグルメ等)と組み合わせたモデルコース設定や周遊企画」(28.9%)
- 第3位「観音堂や参道の補修などの環境整備」(28.4%)

○「カーボンニュートラル」について

「カーボンニュートラル」について、「言葉も意味も知っている」は29.4%であり、カーボンニュートラル実現に向けた課題は、「『カーボンニュートラル』という言葉やその意味、必要性の認知度が低い」が最も高く50.9%

▶ 「カーボンニュートラル」について、「言葉も意味も知っている」は29.4%、「言葉は知っているが、意味は知らなかった」は23.4%、「言葉も意味も知らなかった」は45.6%

▶ カーボンニュートラル実現に向けて実践している取組みについて、回答割合が高い項目

- 第1位「省エネ・節電(冷房・暖房は適切な温度で使用する、冷蔵庫の開閉を少なくする、照明や電気製品の不使用時の電源オフなど)」(62.4%)
- 第2位「省エネ製品への交換(省エネ家電への買い替えやLED照明への交換)」(39.2%)
- 第3位「エコドライブの実践(急発進やムダなアイドリングの防止など)」(36.0%)

▶ 今後、カーボンニュートラル実現に向けた取組みを『行いたい』(「ぜひ行いたい」、「できれば行いたい」)は66.8%

▶ カーボンニュートラル実現に向けて取組みを行う上での課題について、回答割合が高い項目

- 第1位「『カーボンニュートラル』という言葉やその意味、必要性の認知度が低い」(50.9%)
- 第2位「省エネ家電や自動車の買い替え、再エネ設備導入など取組みに必要なコストが高い」(41.7%)
- 第3位「どんなことに取り組みればよいのかが分からない」(22.0%)

○「デジタル技術の活用」について

インターネットに接続できる機器を「持っている」は88.1%、行政手続きを電子申請で行ったことが「ある」は19.3%

- ▶ インターネットに接続できる機器を「持っている」とする回答は88.1%、「持っていない」は9.3%
- ▶ インターネットに接続できる機器の保有状況について、回答割合が高い項目

第1位「スマートフォン」(71.2%)
第2位「テレビ」(53.9%)
第3位「ノートパソコン」(48.3%)

- ▶ 行政手続きを電子申請で行ったことが「ある」は19.3%、「ない」は78.5%
- ▶ 電子申請を利用したことがない理由について、回答割合が高い項目

第1位「電子申請のやり方が分からなかった(機器の操作の仕方が分からない、説明が不十分など)」(24.2%)
第2位「利用したくない(情報漏洩などの点で信頼できない、正確にできているか不安など)」(19.7%)
第3位「特になし」(19.0%)

- ▶ デジタル化の推進に向けて期待する取組みについて、回答割合が高い項目

第1位「災害・事故予防と災害発生時の情報発信及び迅速な対応」(51.7%)
第2位「医療・福祉サービスの提供と現場の負担の減少」(38.6%)
第3位「地域の課題解決(買い物、地域交通、子育ての利便性向上など)」(23.0%)

○「地域連携ICカード」について

鉄道・バス・タクシーの利用頻度はいずれも「ほとんど利用しない」が7割を超える一方、地域連携ICカードの購入に前向きな回答(「購入する」及び「購入を検討する」)は40.6%

- ▶ 鉄道・バス・タクシーの利用頻度は、いずれも「ほとんど利用しない」が最も多く7割を超えており、次に多い回答は「1年に数回」
- ▶ 公共交通機関で使用できるICカードについて、「Suica」又は「Suica以外の交通系ICカード」を持っているとする回答は30.8%、「持っていない」は62.4%
- ▶ 地域連携ICカードが発売されたら「購入する」は6.5%、「購入を検討する」は34.1%、「購入しない」は55.8%
- ▶ 購入又は購入を検討するため、ICカードを取り巻く環境や地域連携ICカードに期待するサービスや機能について、回答割合が高い項目

第1位「買い物で使えるお店が増える」(33.3%)
第2位「お店で地域連携ICカードを提示すると様々な割引サービスが受けられる」(24.9%)
第3位「地域や商店街が独自のポイントサービスを提供する」(14.2%)

○「動物の愛護及び管理」について

「ペット同行避難」について「言葉も意味も知っている」は36.4%、ペット同行避難を進める上で望む対策は「ペットを受け入れる避難所と受け入れない避難所を公表すること」が最も高く65.8%

▶ 災害時における「ペット同行避難」について、「言葉も意味も知っている」は36.4%、「言葉は知っているが、意味は知らなかった」は19.9%、「言葉も意味も知らなかった」は38.8%

▶ ペット同行避難を進める上で避難所や自治体に望む対策について、回答割合が高い項目

- 第1位「ペットを受け入れる避難所と受け入れない避難所を公表すること」(65.8%)
- 第2位「避難所内でペットを保管する場所を、動物が苦手な方やアレルギーがある方に配慮して、あらかじめ決めておくこと」(65.6%)
- 第3位「ペット管理のルールを作っておき、飼い主に遵守するよう周知徹底すること」(45.7%)

▶ 動物の愛護やペットの適正な飼育の推進のために県が取り組むべきことについて、回答割合が高い項目

- 第1位「迷惑な飼い主への指導強化」(27.6%)
- 第2位「収容された犬・猫の譲渡を推進すること」(22.3%)
- 第3位「譲渡する犬・猫の不妊去勢手術を実施すること」(19.6%)

○「スポーツ」について

この1年間にスポーツや運動を行った人のうち「週1日以上スポーツを行った」は50.1%、また新型コロナウイルスの影響で変化したことは「スポーツや運動を行う頻度が減った」が最も高く31.8%

▶ この1年間にスポーツや運動を「行った」とする回答は67.7%、「スポーツや運動はしなかった」は29.6%

▶ この1年間にスポーツや運動を行った人のうち「週1日以上スポーツを行った」とする回答は50.1%

▶ この1年間に行ったスポーツや運動について、回答割合が高い項目

- 第1位「ウォーキング（歩け歩け運動、散歩などを含む）」(41.7%)
- 第2位「体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳び、花の山形しゃんしゃん体操などを含む）」(26.6%)
- 第3位「室内運動器具を使ってする運動」(10.2%)

▶ スポーツや運動をしなかった理由について、回答割合が高い項目

- 第1位「仕事（家事・育児）が忙しくて時間がないから」(33.9%)
- 第2位「仕事等で体を動かし疲れているから」(28.5%)
- 第3位「年をとったから」(27.3%)

▶ スポーツや運動を行う上で、新型コロナウイルスの影響で変化したことについて、回答割合が高い項目

- 第1位「スポーツや運動を行う頻度が減った」(31.8%)
- 第2位「変化はない」(27.3%)
- 第3位「人と人との間隔を意識してスポーツや運動を行うようになった」(20.4%)